

# 「けがの防止」

～私の町で安心・安全な生活を送るために～

---

小学校保健 5年（全4時間）

ツール・機能 : 端末のカメラ機能、OneNote  
分類 : 調査活動

# ICT活用のねらい

- 安全についての視点をもって、児童自らが校内や地域などの生活に関わる場所を撮影することで、主体的に学ぶことができます。
- 校内や地域などの生活に関わる場所を題材とすることで、自らの生活と結び付けて学習することができ、児童の思考力・判断力・表現力の育成につながります。
- 校内や地域の写真を使用して安全マップを作成することで、校内の安全教育や家庭への周知が期待できます。

# 学習の流れ

	事前	第1時	第2時	第3時	第4時
主な学習内容	端末を使っでの撮影	けがや事故の発生	交通事故の防止	犯罪被害の防止	けがの手当
	<ul style="list-style-type: none"><li>・事前に、校舎内や運動場などの事故やけがの多い場所を撮影。</li><li>・週末や長期休業の宿題等で、通学路など家の周辺の道路や、日頃よく遊ぶ場所を保護者と一緒に撮影する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・毎年多くの事故が発生し、けがや死亡する人が少ないこと、けがや事故は人の行動と環境が関わって発生していること。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・交通事故によるけがの防止には、周囲の危険に気付いて、的確な判断の下に安全に行動することが必要であること。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校生活の事故や犯罪被害の防止には周囲の危険に気付いて的確な判断の下に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・けがの状況をできるだけ速やかに把握して処置することと近くの大人に知らせることが大切であること。</li><li>・自分でできる簡単なけがの手当てをすること。</li></ul>
	【活用場面①】	【活用場面②】	【活用場面③】		

# ここがポイント

**端末のカメラ機能**を活用します  
 授業の前に撮影しておきます

## 【活用場面①】

事故やけがの多い場所を撮影します。



前にこんなけがをしたな…



ここで事故にあいそうになったな…

# ここがポイント

端末のカメラ機能を活用します

## 【活用場面②】

1. 写真を見ながら、児童が自らの経験を基に事故の予測を立てます。
2. 危険を避けるための正しい判断・行動へとつなげていきます。

### ①危険予測

「ろう下でケガする人が多いそうです。  
自分や友達がケガをした時のことを思い出してみよう。」



### ②正しい判断・行動

「事故を防ぐためにはどうする？」

よそ見をしていたら、  
棚にぶつかって、足をけがしたよ

ろう下を走っていたら、  
教室から出てきた人とぶつ  
かって、かべで頭を打ったよ



教室のドア



ろう下は、周りをよく見て  
落ち着いて歩こう！



# ここがポイント

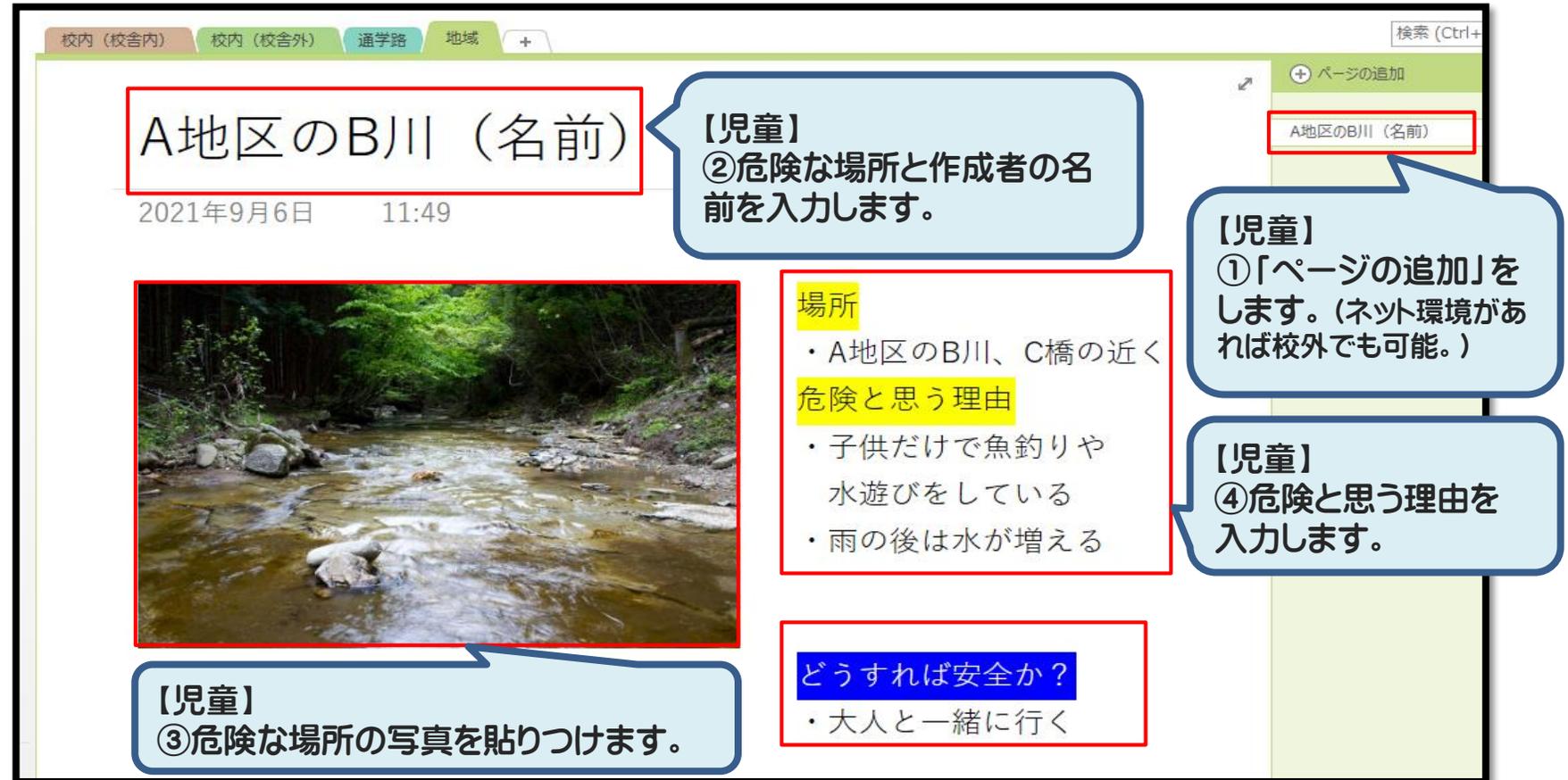
OneNoteを活用します

## 【活用場面③】

1. 地域などの生活に関わる場所で、危険な場所を写真に撮ります。
2. 危険な場所の地名や、危険と思う理由を入力し、ページを作成します。

## OneNoteの使い方

- ・ OneNoteでは、文字の入力や図形の描画、画像や音声、文書のファイルなどを貼り付けてまとめることができます。
- ・ OneNoteはマイクロソフトのクラウドサービス「OneDrive」に対応しており、ここに全てのデータを保存しておくことができます。OneDriveを介して、学校と自宅で同じメモを編集したり、スマートフォンやタブレットを使って外出先でメモを確認したりして、教師や複数の児童で情報を同時に共有することができます。



校内 (校舎内) 校内 (校舎外) 通学路 地域 +

検索 (Ctrl+)

+ ページの追加

A地区のB川 (名前)

2021年9月6日 11:49

**【児童】**  
②危険な場所と作成者の名前を入力します。

**【児童】**  
①「ページの追加」をします。(ネット環境があれば校外でも可能。)

**【児童】**  
④危険と思う理由を入力します。

**場所**

- ・ A地区のB川、C橋の近く

**危険と思う理由**

- ・ 子供だけで魚釣りや水遊びをしている
- ・ 雨の後は水が増える

**どうすれば安全か?**

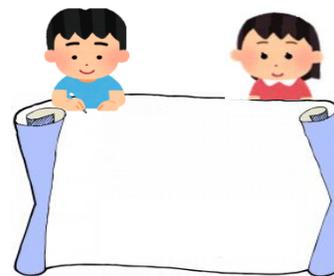
- ・ 大人と一緒にいく

**【児童】**  
③危険な場所の写真を貼りつけます。

# 1人1台端末を活用することで①

~OneNoteを活用した場合~

模造紙にまとめるよりも・・・



## 児童の立場で

- 1.すぐに可視化できるので対話的な学びにつながります。
- 2.写真や文字の入力や修正が簡単にでき、制作の時間が短縮できます。



## 教師の立場で

- 1.児童の考えを集約しやすく全体共有につなげることができます。
- 2.教具の準備、制作物の回収や管理が簡単にできます。



※マイクロソフトではOneNoteを使いますが、ほかのOSでも同じような機能のソフトウェアで作成が可能です。

# 1人1台端末を活用することで②

- ・学習してまとめたことを安全教育や生活指導にもつなげることができます。
- ・データとして学習内容を保存でき、全校児童へ伝えることができます。



## 撮影についての注意点

- ・児童には、外で撮影する際のマナー等について伝えます。
- ・保護者には、通学路や自宅周辺で危険と思われる個所を、児童と一緒に周りながら撮影をしていただくことを文書等でお願ひします。

委員会活動で取り組んでみてもいいかも!